

SSRI

ちよつと言

Give me a break !

## 米国の北朝鮮への軍事侵攻には大きな困難を伴う

樋口 譲次

藤岡智和氏の『米国はまだ武力行使ができる状態にはない』(2017 年11 月10 日付)は、今後の北朝鮮情勢を占う上で、大へん示唆に富んだ記事である。

実は、米国の民主党上院議員で元軍人のテッド・リューとルーベン・ガレゴ両氏は 9 月下旬、ジェームズ・マティス米国防長官に宛てた書簡で、米朝戦争になった場合の詳しい被害予測を発表するよう要求したが、米統合参謀本部議長室を通じた回答には、藤岡氏の指摘と同じ趣旨の内容が含まれている。

その回答には、「北朝鮮が開発した核兵器や関連施設をすべて発見し、完全に破壊するためには、地上侵攻しか方法がない」と書かれている。

核兵器のみならず、生物化学兵器などの兵器弾薬の保管場所や関連施設、地下に造られた指揮所や攻撃拠点、金正恩政権の内部情報などを正確に把握するのは至難の業であり、まだ、十分に解明されていないのである。

米国の対北軍事作戦には陸上侵攻は不要と断言する軍事専門家と言われる人もいるようだが、明らかに米軍の見解とも異なる軍事常識を欠いた議論だ。

平成 29 年版「防衛白書」によると、現在の朝鮮半島における陸上兵力は、北朝鮮が約 102 万人、韓国が約 49.5 万人、在韓米陸軍が約 1.5 万人で、米韓合わせても約 51 万人。北朝鮮のおおむね半分で、米韓両軍はきわめて劣勢である。

北朝鮮は、軍事境界線沿いに1万3600両といわれる大砲や多連装ロケット砲、ミサイルなどを配備している。その制圧無力化には、米韓連合軍をもってしても「数日」はかかり、その数日間に北朝鮮軍の大規模な反撃によって、「膨大な数の犠牲者と避難民が生まれる」と見積もられている。

それを阻止するには、米軍は前もって朝鮮半島に所要の陸軍部隊や装備弾薬等を増強する必要があるが、そのような事前展開を行えば、逆に北朝鮮に先制攻撃を招いてしまうというジレンマを抱えている。米国の北朝鮮への軍事侵攻には大きな困難を伴うのである。

直近のイラク戦争やISとの戦闘が証明するように、戦いは「人と土地の支配」なしには最終的な決着をみない。わが国では、海空重視論が盛んであるが、米国の北朝鮮に対する軍事侵攻の困難や苦悩を見れば、陸上防衛力の意義と役割について再認識させられるであろう。(2017 年11 月11日)